

キャリア教育の必要性と考え方

1. 第2期教育振興基本計画（H25年6月）

- ・「幼児期の教育から高等教育までの各段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を充実し、
～地域・社会や産業界等と連携・協働した取り組みを推進する。」
- ・学校（幼稚園から大学まで）で体系的・系統的に、様々な場面で行う。

2. 長崎市教育大綱

- ・「未来の長崎を担う人材育成を積極的に進める～」ために
- ・「15の春に自分の夢に向かってスタート」するために

3. キャリア発達（小学生から高校生まで）の観点…不足

- ・勤労意識（勤労観） 働く意義について意識づけ
- ・どのように生きるか、人生について考えることが必要

①人として生まれる ②人として生きる（一人前に） ③人のために生きる（働く）

④人を生かす（経験知） 小学生→中学生

今、どこを生活しているか 何のために生活しているか、

何のために勉強しているのか

- ・人のため、世の中のために

例えば、人の命を助けること 物づくりにかかわること 運転手さん

おいしいものをつくること（コックさん・パティシエ） ビルや家をつくること

→ それぞれ知識や技能が必要 → だから、勉強するんだ

4. キャリア教育（小学校高学年から中学生）

- ・人間関係づくり能力…特別活動（集団活動で心身の調和のとれた発達）
- ・課題発見・解決能力…各教科、総合的な学習の時間
- ・仕事とは…いくつかの仕事を取り上げて5ワークがどこにあるか探す
ヘッドワーク フットワーク ハートワーク ネットワーク チームワーク
（頭を使う） （身体を使う） （心を使う） （流れとつながり） （組織で行う）
※外部講師による5ワークの実際の講話＜教育関係以外の部門＞
- ・ロールプレイング、グループワークで模擬仕事
- ・学校行事（運動会・体育祭、発表会、文化祭など）もひとつの仕事として意識させる

5. 職業教育（中学生から高校生）

- ・職業とは…分野別に職種や内容を探求
- ・夢や希望を実現できる（提供してくれる）仕事（場）が長崎市（長崎県）にあるか
※商工、建設、農水産業、観光などの部門からの情報提供
※長崎市、長崎県の人口増加につながるような取り組み
- ・職場体験、インターンシップ

長崎市のキャリア教育の現状の中に落とし込むことで可能

教育課程の中での位置づけの課題